テヌートのシステムを導入

ひなたいちご園

イチゴ栽培 出来は予想以上

CO2局所施用の「ブレス」

ひなたいちご園代表の長友一平氏

㈱ひなたいちご園（宮崎市）で、イチゴの高設栽培を行う長友一平代表取締役（32歳）。導入している㈱テヌート（東京都港区）が扱う、CO_2ボンベを用いて、コンピュータ制御で配管を通じてエアーと共にCO_2を、じんわりと漂わせるように作物付近に施用する、CO_2局所施用システム「ブレス」などについて取材した。

同氏が就農したのは26歳の時。それまでは学校卒業後5年間、福岡の従業員2万人の大企業で通関士として働いていたが、25歳の時にこれからの人生を考え、自分にしかできないことをするため地元に戻って、元々実家でやっていたイチゴ農家を手伝い始めた。最初は軽い気持ちで始めたイチゴ農家だったが、次第にその魅力に夢中になり、4年半ほど前に親から独立。その後、規模拡大し、今年7月には農業法人を立ち上げた。今では6連棟のハウス4カ所、24棟合計70㌃の施設で、「やよいひめ」「ゆめのか」「さがほのか」の3品種を、化成肥料、化学農薬に頼らない方法で栽培している。

昨年1月に参加した環境制御技術に関する講演会で、同技術の有用性を感じていたが、ピンとくるものはなかった。あれこれ探しているところに、テヌートの「CO_2局所施用システム」に出会い、昨年12月、テヌートのCO$_2$局所施用システム「ブレス」を導入した。

使い始めると、生り疲れが減って、収量が約20%増えた。その上、味も良くなった。

「あまり味が乗らなかった裾玉まで美味しい。しかも1玉が大きくなった。これまで3～4割くらいは小玉だったが、1～2割に減少した。品質が良くなった分、収益率が増えて、パック詰めなどの作業時間短縮につながり、人件費の削減にもつながっている」と長友氏は言う。

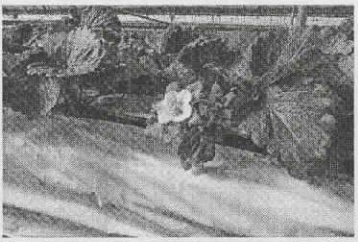
現在は、20㌃に「ブレス」を入れ、元々「ブレス」が入っていた施設のバージョンアップも含め、50㌃で環境統合制御システム「コンダクター」の導入を進める。「コンダクター」は、CO_2局所施用に加え、個別のセンサーによって、天窓、側窓、カーテン、加温機、循環扇、ミスト、液肥ポンプ等の各機器も制御できるシステムだ。

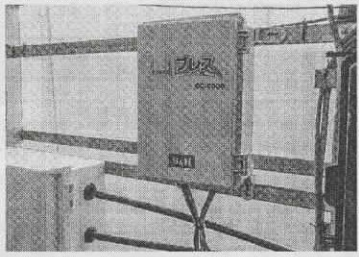
システム導入前の昨年。台風被害で4分の1に当たるハウスが水没した。そのハウスが唯一の土耕栽培だったこともあり、そこで植えた苗はすべて全滅。苗を全部植え替えた。しかも、溜まった水がなかなか抜けず、その影響で度々病気や虫が発生。様々手を打ったが収穫したイチゴの半分は売り物にならなかった。今期からはそのハウス内も全面的に高設栽培に切り替えて蘇らせた。

「ブレス」などの導入でハウス単体での収量は上がったが、台風被害で全体の売り上げは落としました。「台風がなかったら、もっと大変だったと思います」と長友氏。意味が解らず、その真意を尋ねると、「あのまま順調に行っていたら、とてもじゃないけども収穫が追い付かなかったです。イチゴの出来は予想以上でしたから」と語った。農業をやっていれば、誰でも何かしら困難にぶつかるものと割り切る。6連棟ハウス丸々1カ所の苗を全滅させる被害を受けてもなお、前向きに捉える強さがそこにはあった。

今後は、高齢化で辞めていく農家から中古ハウスを積極的に買い取り、担い手として現在の10倍を目指し規模拡大をしていく。タイへの輸出や観光農園の取り組みなども徐々に始めつつあり、ゆくゆくはグローバルGAP取得などもしていきたいと語った。

テヌートHP：http://tenuto.co.jp/





ハウスではイチゴが花をつけ始めた㊤。テヌートのCO$_2$局所施用システム「ブレス」の制御盤㊦